

春景

静謐

春霞

愛情

祈祝

心配

悲壯

朗報

運命

淡光

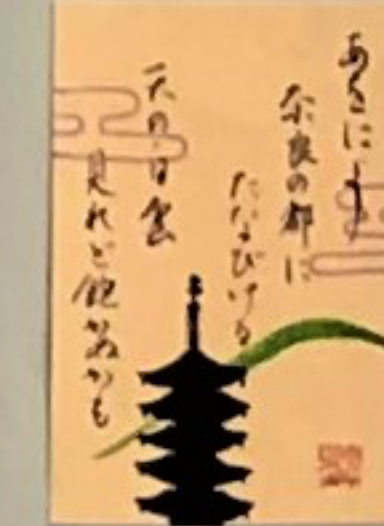
哀愁

不安

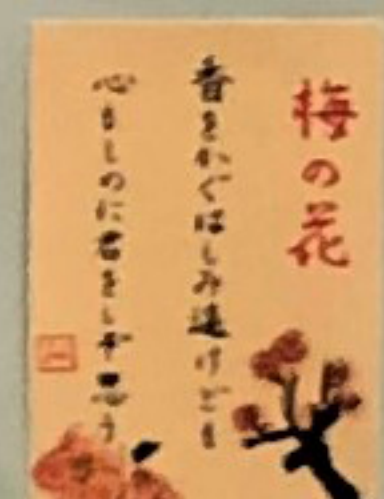
鹿待

勇氣

祈



近はうき
七波千与
はあけは
心もしるる思はし



奈良

再会

争い

茜

命

初春の今月
気淑く風和き
梅は鐘前の
粉を振り
蘭は現後の香を
薫す
令和

春過ぎて
夏来るらし
白妙の
衣干したり
天の香具山

春過ぎて
夏来るらし
白妙の
衣干したり
天の香具山

東の
野に炎の
立つ見えて
かへり見すれば
月傾きぬ

田子の浦ゆ
うち出でて見れば
真白にぞ
雪は降りける

春過ぎて
夏来るらし
白妙の
衣干したり
天の香具山

令和

東の野に炎の
立つ見えて
かへり見すれば
月傾きぬ

初春の今月にして
気淑く風和き
梅は鐘前の粉を振り
蘭は現後の香を薫す

君待つと
我が恋ひ
居れば
我が屋戸の
たれ動けし
秋の風
吹く

春過ぎて
夏来るらし
白妙の
衣干したり
天の香具山

紅

梅の花
今盛りなり
百鳥の
声の恋しき
春来るらし

春の野に
すれぬわにど
野をなつかしけり
一夜寝にけり

令和

東の
野に炎の
立つ見えて
かへり見すれば
月傾きぬ

春の夜
夢ばかりなる
手枕に
かひなく立た
ぬこを惜しけれ

新しき年の初めの
初春の
今日降る雪の
いでしけし事

あふれぬ
春の野に
すれぬわにど
野をなつかしけり
一夜寝にけり

東の野に炎の
立つ見えて
かへり見すれば
月傾きぬ

春過ぎて
夏来るらし
白妙の
衣干したり
天の香具山